

# がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です  
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	pani+FOLFIRI
診療科名	腫瘍内科
診療科責任者名	大山 優
適応がん種	結腸・直腸がん
保険適応外の使用	有 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	En-32
登録日・更新日	2010年7月13日
削除日	
出典	ベクティビックス適正使用ガイド
入力者	安室 修

投与順に記入(抗がん剤のみ)

	薬剤名	規格	投与量算出式	ルート	投与時間	施行日
No.1	ベクティビックス	100mg	6mg/kg	IV DIV IVHポート 側管 その他( )	60分	Day1
	生理食塩液	100mL				
No.2	カンプト	40, 100mg	150 ~ 180mg/m <sup>2</sup>	IV DIV IVHポート 側管 その他( )	2時間	Day1
	生理食塩液	500mL				
No.3	レボホリナートCa	25, 100mg	200mg/m <sup>2</sup>	IV DIV IVHポート 側管 その他( )	2時間	Day1
	生理食塩液	500mL				
No.4	5-FU注射	250mg	400mg/m <sup>2</sup>	IV DIV IVHポート 側管 その他( )	bolus	Day1
	生理食塩液	50mL				
No.5	5-FU注射	250mg	2400 ~ 3600mg/m <sup>2</sup>	IV DIV IVHポート 側管 その他( )	46時間	Day1
	生理食塩液	20, 50mL				

1コースの期間	14日
投与間隔の短縮規定	短縮可能( 1 日 ) ・ 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>中止基準 Grade3 ~ 4のinfusion reactionが発現した場合は投与を中止し、次回以降の投与は行わない。 (Grade1 ~ 2のinfusion reactionが発現した場合は投与時間を2時間に延長して投与することが可能)</p> <p>Grade3以上の皮膚障害発現時 (延期後6週以内にGrade2以下に回復しなかった場合) 3.6mg/kgにて投与中にGrade3以上の皮膚障害発現時</p> <p>投与延期基準 以下のいずれかに該当するとき Grade3以上の皮膚障害発現時 (延期後6週以内にGrade2以下に回復した場合投与可能) WBCが3000/mm<sup>3</sup>未満 Pltが10万/mm<sup>3</sup>未満</p> <p>減量基準 Grade3以上の皮膚障害発現時にベクティビックスを以下の投与量に減量する 4.8mg/kg (減量前の投与量が6mg/kgのとき) 3.6mg/kg (減量前の投与量が4.8mg/kgのとき)</p>
前投薬	グラニセトロン3mg+デキサメタゾンNa
その他の注意事項	<p>患者選択基準として以下の事項を満たすこと ・原則としてKRAS遺伝子野生型の患者に限定する ・performance status (PS) 0 ~ 2</p> <p>インラインフィルター (0.2ミクロン又は0.22ミクロン)を通して投与する (ベクティビックス) ベクティビックスの投与前後に生理食塩液を用いて点滴ラインを洗浄する</p>

記入者	安室 修
確認者	大山 優